

環境と経済

2010年2月1日

- (1) 環境問題との出会い
戦後高度経済成長と4大公害事件、深刻化した大気汚染や水質汚濁
- (2) 公害の経済学
公害 (Public Disruption) の定義。A.C.ピグーの外部不(負)経済。支払われない費用。市場経済の失敗 (Market Failure)。カップの社会的費用。
- (3) 都留重人教授の公害の政治経済学
資本主義市場経済を価値面と素材面で捉えることの重要性を提起。制度派経済学と市場経済における過剰生産・消費。費用・便益分析と公共投資
- (4) 公害対策の進展
公害対策基本法の改正 (1970年)。OECDのPPP (1972年)、日本型PPPの国際展開、公害健康被害補償法 (1972年)、公害防止条例と公害防止協定。循環型社会への取り組み。環境基本法 (1993年)。EPR (拡大生産者責任)
- (5) 社会資本、社会的共通資本、コモンズ
公共信託財産としての自然環境。環境権。遅れた行政の取り組み。フローとストック。環境教育の重要性。企業の社会的責任 (CSR)。サステイナブル社会への展望。

参考文献

- ① 都留重人『公害の政治経済学』(岩波書店、1972年)
- ② 都留重人著作集、全12巻(講談社)
- ③ S.Tsuru ed., *Environmental Disruption: Proceedings of International Symposium* (ISSC, Asahi Evening News, 1970年)
- ④ 宮本憲一『環境経済学』(有斐閣)
- ⑤ 庄司光、宮本憲一『恐るべき公害』(岩波新書、1964年)
- ⑥ カップ K.W.『私的企業と社会的費用』(岩波書店、1959年)
- ⑦ カップ K.W.『環境破壊と社会的費用』(岩波書店、1975年)
- ⑧ R.K.ターナー、D.ピアス、I.ベイトマン『環境経済学入門』(東洋経済新報社、2001年)
- ⑨ 原田正純『水俣病にまなぶ旅』(日本評論社、1985年)
- ⑩ 橋本道夫『私史環境行政』(朝日新聞社、1988年)
- ⑪ E.J.Mishan, *The Costs of Economic Growth*, Staples Press, 1967 (『経済成長の代価』岩波書店、1971年)
- ⑫ メドウズ他『成長の限界』(ダイヤモンド、1972年)
- ⑬ レスター・ブラウン編『ワールドウォッチ 地球白書』(ダイヤモンド、1984年以降)
- ⑭ フォン・ワイツゼッカー『地球環境政策』(有斐閣、1994年)

- ⑮ 石弘之『地球環境白書』（岩波新書、1988年、1998年）
- ⑯ 宇沢弘文『自動車の社会的費用』（岩波新書、1974年）
- ⑰ 宇沢弘文『社会的共通資本』（岩波新書、2000年）

法政大学経済学部：永井進